

## 霧島硫黄山火山ガス調査結果

2016年2月11日の調査の結果、霧島硫黄山の噴気は96°C（沸点温度）で、低温噴気組成であるが、わずかにSO<sub>2</sub>を含む組成であった。

H<sub>2</sub>O=99 mol%、CO<sub>2</sub>=1.2%、H<sub>2</sub>S=0.1%、SO<sub>2</sub>=0.002%、H<sub>2</sub>=0.0001%

DOASによるSO<sub>2</sub>放出率観測の結果、放出率は検出限界（0.06t/d）以下であった。

霧島硫黄山の登山口周辺の登山道脇（高さ50cm程度）において、高濃度のH<sub>2</sub>S（最大25ppm）およびCO<sub>2</sub>（最大1000ppm）が検出された。気象条件等によってはより高濃度の火山ガスが分布する可能性もあるため、火山ガス事故の危険を回避するためには、早急に周囲の詳細な調査と立ち入り禁止等の措置が必要である。